

蜂の授粉活動応援

粉を促す。イチゴでの試験では奇形果率が最大で8割減った。イチゴ、メロンなどの果菜類の他、桃や梅など果樹で使える。露地・施設栽培のどちらでも使える。

フ
ア
イ
ト
ク
ロ
ー
ム

資材メーカーのファイトクロームは1日、授粉に使うセイヨウミツバチを活性化させる資材「カモンビー」の販売を始めた。香りで巣箱からミツバチを誘い出し、授

花に誘導する芳香資材



「カモンビー」を紹介する内田社長（1日、福岡市で）

イチゴ奇形果8割減

圃場（ほじょう）内におへ蜂を誘導可能。新しい巣箱の導入時や厳寒期など、蜂の活動が鈍り、巣箱から出てこない場合に役立つ。

資材から出る香りは、バラやかんきつ類に含まれ、ミツバチが好む成分を抽出・配合してつくったもの。同社によると「香りでミツバチの授粉活動を促す製品は、日本で初めて」という。2019年に佐賀、長崎

県のイチゴ農家50戸のハウス内で試験した。10月下旬、10坪当たり平均6個をぶら下げた。使用期間は2、3週間。使い始めから1カ月後、奇形果率を調べると、多いところで平年79%だった奇形率が、16%まで下がった。パックの両側を切り、花の位置より上部にぶら下げる。巣箱からは2坪以上離す。商品は1袋10個入りで5000円（税別）。10坪当たりの設置目安は6〜12個。効き目が切れたり、巣箱を導入し直したりしたら新しいものを使う。同社はイチゴ1作で3回の設置を想定し、コストは2万円程度と試算する。露地の場合は多めに使う。内田啓祐社長は「イチゴ農家だと、10坪当たりの収益は約40万円が中心。奇形果の減少率を踏まえれば、コストに十分見合う」と強調する。